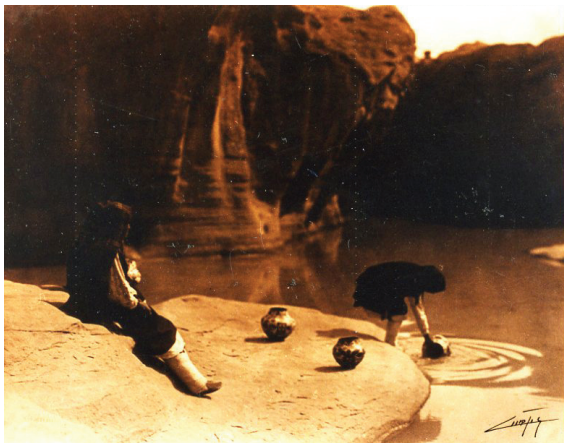




写真上より

エドワード・スタイケン  
フローレンス・メイヤー 1916年  
Edward Steichen  
Florence Meyer, 1916  
© Permission Joanna T. Steichen

エドワード・S.カーティス  
ケレス族、アコマの古井戸にて  
1904年  
Edward S. Curtis  
Keres, At the Old Well of  
Acorna, 1904

マックス・ピーター・カッフェル  
サイレント・ワークス I 1997年  
Max Peter Caffel  
Silent Works I, 1997  
© Max Peter Caffel

ロイス・コナー  
中国 四川省、梁山 1986年  
Lois Conner  
Leshan, Sichuan, China,  
1986  
© 2005 by Lois Conner

エドワード・ウェストン  
妖精は必ずいる 1913年  
I Do Believe in Fairies, 1913  
Photograph by Edward Weston  
© 1981 Center for Creative  
Photography, Arizona  
Board of Regents

ローマン・ヴィシュニアック  
ユダヤ人学校の少年、  
グレヒニア・アプサ 1937年  
Roman Vishniac  
Cheder Boys, Vrchni Apsa, 1937  
© Mara Vishniac Kohn, courtesy  
International Center of Photography

クラレンス・H. ホワイト  
朝 1908年  
Clarence H. White  
Morning, 1908

プラチナ・プリントは、鉄塩の感光性を利用し、プラチナやパラジウムを利用した写真の焼き付け技法です。その画像は、漆黒からグレー、そして白までの階調の幅が非常に広く、白金の科学的安定度がきわめて高いため、保存性が優れていることが特徴です。

プラチナを印画に使用する試みは、1839年の銀を用いた技法の誕生よりも早く、1831年から行われていました。そして、プラチナの印画紙が登場するのは、イギリスのウィリアム・ウィリス・ジュニアの発明および特許を取得した1873年でした。本展では、当館の収蔵作品より、ウィリスが1878年にイギリスの写真協会誌(後の王立写真協会)において、技法を正式に発表するために制作した作品「田舎の小屋」をはじめ、2000年制作の現代作品まで約120点を展示いたします。

19世紀末から20世紀初頭、画家たちが好んで描いたような主題をモチーフとした夢幻的な作品が多くプラチナ・プリントで作られましたが、一方で絵画主義に反発する自然主義写真

が、近代写真の流れとなっていきます。第一次世界大戦の影響でプラチナの値段が急騰したため、プラチナ・プリントによる作品制作は途絶えてしまいましたが、1970年頃からアメリカを中心に復活を見せました。

近年のデジタル写真とはまさに対極をなすようなハンドワークや経験を必要とするプロセスでありながら、多くの写真家はその美しさに魅了され、プラチナ・プリントを制作しています。優美な色調とベルベットのよう滑らかさ、あるいは硬質で明らかな煌めき、そして密着焼きならではの細密画のようなディテールを可能とするプラチナ・プリントは、単に古典技法のリバイバルや目新しさではなく、表現技法のひとつとして積極的に取り入れられているのです。本展期間中には、2日間にわたるプラチナ・プリント・ワークショップも開催いたします。

→プラチナ・プリントは鉄塩の感光性を利用し、塩化白金と鉄塩の感光液を水彩画用紙に塗布した印画紙を乾燥させ、ネガを直接印画紙の上におき、密着させて、紫外線に感光させます。そしてクエン酸アンモニウム液にて現像、洗浄し、乾燥を行います。

## プラチナ・プリント・ワークショップ

実作品を見ながらの技法解説、ネガ作り、プリント現象などの実技を2日間にわたって行います。

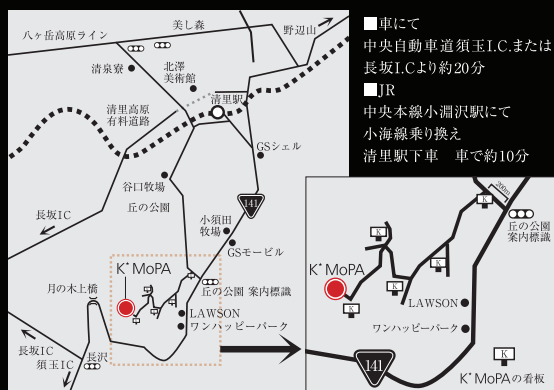
日時 2006年1月29日(土)・30日(日)の2日間

講師 細江賢治(写真家)

受講料 一般 30,000円/友の会・会員 27,000円(友の会・会員優先)

定員 12名 ※参加はモノクロ・プリントの経験者に限らせていただきます。

参加ご希望の方は1月14日までに電話・FAXまたはメールにてお申し込みください。



■車にて  
中央自動車道須玉IC.または  
長坂ICより約20分

■JR  
中央本線小淵沢駅にて  
小海線乗り換え  
清里駅下車 車で約10分

休館日 毎週火曜日、10月24日(月)～28日(金)、  
12月7日(水)、8日(木)、年末年始(12月31日～1月3日)

■開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)

■入館料 一般 800円(600円) 学生 600円(400円) 中・高生 400円(200円)

( )内は20名様以上の団体料金

\*家族割引 1200円(2名以上～6名様まで)

■館内にはミュージアム・ショップ、レストラン「ラ・ブルミエール」もご用意。

ケイ・モパ

**K' MoPA**  
清里フォトアートミュージアム  
Kiyosato Museum of Photographic Arts

〒407-0301  
山梨県北巨摩郡高根町清里3545  
TEL: 0551-48-5599  
FAX: 0551-48-5445  
URL: <http://www.kmopa.com/>

## 「日本の敗戦 1945-49年 ジョン・スウォープ、三木淳の写真」展

Japan's Defeat 1945-49: Photographs of John Swope and Jun Miki

主催 清里フォトアートミュージアム

会期 11月11日(金)～11月17日(木) 午前10時～午後8時 最終日午後2時まで

会場 富士フォトサロン/東京(銀座ファイブ2F) 入場無料 会期中無休